

は敷^のるされたれど、よもぎを用ひられし事みえねば、時によりて其製作は異なりしにやあらん。延喜式、西宮記等には、内外群官皆著菖蒲鬢とも、天皇出御著菖蒲鬢とのみにて、異なる事なし。小野宮年中行事には、くは敷^のるされたれども、萬葉集にみえし、花橘を玉にぬき、かづらにせんと、よめる歌には合はず、これ皆時世によりてたがひあるのみ。

〔續日本紀聖武〕天平十九年五月庚辰日、天皇御南苑、觀騎射并走馬、是日太上天皇○元詔曰、昔者五日之節常用菖蒲爲縵、比來已停此事、從今而後非菖蒲縵者勿入宮中。

〔延喜式太政官〕凡五月五日、天皇觀騎射并走馬、并及史等檢校諸事○中是日内外群官皆著菖蒲鬢、諸司各供其職儀○式見二

〔延喜式兵部十八〕凡同日○五月節會文武群官著菖蒲縵

〔延喜式十五〕造五月五日昌蒲珮所、支子一斗七升、橡一斗七升、黃櫟八斤、紫草五十斤、茜五十斤、汁灰一斗七升、酢七升、藁十圍、薪八荷、折櫃廿合○十五合納諸寺昌蒲佩料、五合雜用、敷料調布二端、安藝木綿十二枚、商布一段、紙廿張、土器百枚、錢百五十文、油一升、生絹一丈、油絹一疋三丈、調布一丈、筵一枚○已上察物、飯六斗、糟三斗、雜魚一斗五升、陶函加二口、酒槽二隻○已上四衛府駕輿丁十二人、左右近衛各四人、充雜駆使、觀比、廣隆、東榮、珍皇、

〔小野宮年中行事五月〕三日、六衛府獻昌蒲并花事○中略

〔裏書〕九條右相府記○中造昌蒲縵之體、用細昌蒲草六筋、短草九寸許、長草一尺、筋四筋、以短四筋當巾子、前後各二筋、以長二筋廻巾子充前後、草結四所、前二所、後二所、每所用心葉縫組等。

〔榮花物語三十四〕五月元年○寛德最勝の御八講に、うへの御つばねにおはします、さうぶをみなうちて、やがてさうぶの唐ぎぬ、くすだまなどつけて、ながきねを、やがておまへのみすのまへのやり